

阿蘇山の石を用いた石棺  
築山古墳



指定区分	県指定史跡
読みかた	つきやまこふん
所在地	瀬戸内市長船町西須恵
指定年月日	昭和34年3月27日
解説	5世紀後半に造られた墳長約82mの前方後円墳。後円部には九州阿蘇の凝灰岩から作られた家形石棺が置かれている。明治時代に鏡、刀、勾玉、管玉などが発見された。これらの出土品は、現在、東京国立博物館に収蔵されている。
アクセス方法	JR邑久駅から5.6km
公開状況	自由
設備	須恵古代館駐車場利用可 
備考	県道からの進入口には「須恵古代館」がある。長船地方の築山古墳をはじめ多くの古墳や須恵器窯跡などの遺跡からの出土品を展示している。【須恵古代館】開館:土・日曜日・祝日の9:30～17:00 / 無料

## きつずページ



していくぶん (指定区分)	県指定史跡
ぶんかざいめい (文化財名)	築山古墳
よみかた	つきやまこふん
しょざいち (所在地)	瀬戸内市長船町西須恵
していたひ (指定した日)	昭和34年3月27日
せつめい	長さおよそ82メートルの前方後円墳(ぜんぼうこうえんふん)です。後円(こうえん)のあたりには屋根(やね)のような形(かたち)のふたをもつ石棺(せつかん)がそのまま置(お)かれています。この古墳(こふん)から出てきたものは、東京国立博物館(とうきょうこくりつはくぶつかん)にあります。すぐそばには須恵古代館(すえこだいかん)があり、この地域(ちいき)の遺跡(いせき)からの出土品(しゅつどひん)を展示(てんじ)しています。